

国際シンポジウム

災害文化形成を担う 地域歴史資料学の確立をめざして

International Symposium on Local Historical Materials Studies : Formation of Disaster Subcultures



写真: 斎藤秀一

日時

2017年

11月11日(土) 13:00~17:30 11月12日(日) 9:30~15:30

~災害資料の保存と活用~

~被災歴史資料の保全と活用~

会場

神戸大学先端融合研究環統合研究拠点コンベンションホール
(神戸市中央区港島南町7丁目1-48)

入場無料/申込不要 使用言語:日本語

Speakers

アンドルー・ゴードン (ハーバード大学)

イ・ユンギョン (韓国国家記録院/神戸大学)

カルロ・カカーチェ (イタリア国立保存修復高等研究所)

謝仕淵 (国立台湾歴史博物館)

阿部浩一 (福島大学)

天野真志 (国立歴史民俗博物館)

【主催】科学研究費補助金基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」
(研究代表者・奥村弘)研究グループ

【共催】人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館)/東北大学災害科学国際研究所/神戸大学大学院人文学研究科/神戸大学先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット/神戸大学先端融合研究環「人文情報の文理融合研究と地域学創出」プロジェクト

【後援】神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室

問い合わせ先

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学人文学研究科(担当:吉川)

E-mail:yoshik@port.kobe-u.ac.jp Tel:078-803-5571

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~chiiki/index.html>



現在、日本では東日本大震災被災地の再生が喫緊の課題となっている。さらに、東日本大震災後も日本列島では自然災害が多発し、世界各地でも大規模な自然災害が続発している。＜災害文化—災害に強い地域文化＞の形成を進めていくためには、国際的な展望を踏まえた検討が求められる。

東日本大震災のインパクトの中で、地域の歴史遺産を守りつなぐ国際的連携の取り組みが注目されてきた。災害記憶の継承を目的とした東北大学とハーバード大学、国立歴史民俗博物館と国立台湾歴史博物館による連携はその嚆矢である。地域歴史資料の保存活用を軸とした国内外における連携の強化は＜災害文化を担う地域歴史資料学＞の確立にとって不可欠な課題である。

本シンポジウムでは、東日本大震災後の実践的研究を踏まえながら、国際的なネットワークに着目して、これからの地域歴史資料学を展望する。

Program

11月11日(土) 13:00~17:30

～災害資料の保存と活用～

- 13:00 開会挨拶
- 13:15 趣旨説明
奥村弘(神戸大学)
- 13:45 基調講演
アンドルー・ゴードン(ハーバード大学)
災害が喚起する歴史保存と歴史認識の課題
- 15:00 報 告
イ・ユンギョン(韓国国家記録院／神戸大学)
韓国の災害資料の管理・活用の現状
—公共機関を中心として—
- 15:30 コメント
エリザベス・マリ(東北大学災害科学国際研究所)
佐々木和子(神戸大学)
白井哲哉(筑波大学)
- 16:30 討 論
- 18:00 ~19:30 懇 親 会
(同会場4階ラウンジにて) ※事前申し込み制

11月12日(日) 9:30~15:30

～被災歴史資料の保全と活用～

- 9:30 要点整理
奥村弘(神戸大学)
- 9:40 特別報告
カルロ・カカーチェ(イタリア国立保存修復高等研究所)
文化財・文化活動・観光省の地理情報システムの相互運用と活用
—2016年イタリア中部地震での積極的役割—
- 10:45 報 告
謝仕淵(国立台湾歴史博物館)
2016年台湾南部地震(206地震)における博物館の取り組み
- 11:45 報 告
阿部浩一(福島大学)
東日本大震災後の地域歴史資料保全活動の展開
—福島県での取り組みを例に—
(12:15~13:15 休憩)
- 13:15 報 告
天野真志(国立歴史民俗博物館)
地域歴史資料保全をとりまく課題と可能性
—東日本大震災をふまえて—
- 13:45 コメント
青木睦(国文学研究資料館)
ジョン・ポーター(東京外国語大学)
- 14:30 総合討論

※懇親会参加申し込み方法

事前申し込み制となります。参加をご希望の方は下記ページよりお申し込みください。会費6,000円。
<http://kokucheese.com/event/index/484545/>